

[株式会社愛媛海産] 代表取締役社長 大塚 康仁 様

Q 新しい建物の感想をお聞かせください。

設計当初から時間の制約があるなか、またコロナ禍で建築資材に影響がでていたなかでも様々なご提案と柔軟なご対応をいただき、事務所社屋及び出荷センターとも快適で使いやすい建物ができました。

Q 来客者や職員さんの評判はいかがですか？

瀬戸内のプレイス・ブランディングの恩恵を受けて都会のライフスタイルショップ向けへの商品も開発している弊社へは首都圏からの来客も多く、木目調を基調にした事務所はお客から好評です。また2階事務所への荷物用エレベーターや出荷センターのピッキングマシンなど執務環境を整えたことで従業員の業務効率化やモチベーションアップ、ひいては社員の定着率向上に繋がるものと期待しています。

Q 弊社スタッフの対応はいかがでしたか？

設計から施工に至るまで、スタッフ皆様のお人柄が温かく、誠意あるご対応をいただきました。工事中も頻りに足を運んでいただき、特殊機械の設置などもあったなかで施工者との調整を密に行っていただきました。また施工後もなにかと相談に乗っていただき本当に助かっています。ありがとうございました。

設計監理担当者紹介

設計担当



設計担当 萬家 孝敏

監理担当 矢野 和彦

設計を担当した萬家と申します。計画に際して職員の方の働きやすい社屋、出荷センターとなるように設計を進めて行きました。特殊な機械を設置するため、計画時も現場でもたくさんの苦労がありました。大塚社長をはじめ関係者の皆様と多くの打合せを重ね、周囲の方の協力や施工して頂いた施工会社のご対応もあり、竣工することができました。

この社屋と出荷センターが「瀬戸内産 天然魚のうまいもん」をお客様へお届けする物流拠点として未永く活用されることを願っております。

株式会社 大建設計工務 お問合せ・ご相談は 営業部までご連絡ください 089-933-3311 (月~金 8:30~18:00) daiken@daiken-sekkei.com

本社 〒790-0862 愛媛県松山市湯渡町5-36
南予事務所 〒798-0050 愛媛県宇和島市堀端町1-45コア追手町308号
高松事務所 〒760-0067 香川県高松市松福町1丁目6-3 ダイアパレスポートアベニュー高松100 101号

大建設計工務 公式HP
トップページ



News Letter

Vol. 11

特集 株式会社愛媛海産 社屋および出荷センター



Concept

地域食材の魅力を発信する物流拠点

昭和29年創業

株式会社 大建設計工務

株式会社大建設計工務は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



建築を通して
“まちづくり”に参加する



株式会社愛媛海産 社屋および出荷センター

発注者：株式会社愛媛海産
代表取締役社長 大塚 康仁
延床面積：社屋 160.94㎡
出荷センター 652.14㎡
構造：社屋 S造2階建て
出荷センター S造平屋建て
施工：重松建設株式会社

今治市が面している瀬戸内海は、温暖な気候で穏やかな波ながら、干満の差が大きく潮が高速に流れる世界有数の潮流海域で「東洋の地中海」とも呼ばれる食材の宝庫です。

そんな瀬戸内海、来島海峡という恵まれた海で獲れる地魚をはじめ、地域の食材を使った「瀬戸内産 天然魚のうまいもん」を製造・販売している食品加工メーカーの株式会社愛媛海産様よりご相談をいただき、本社事務所および出荷センターの新築のお手伝いをさせていただきました。

広働きやすい執務環境を目指して (本社事務所)

本社事務所は、限られた敷地を最大限に活かし、建蔽率上限いっぱい計画しました。

1階は倉庫として、自社製品やサンプルを保管する空間。2階は事務所としてオープンな執務スペース空間とし、お客様や職員スタッフの方々にとってフロア構成がわかりやすい計画としました。

社長室は重厚感のあるダークトーンの木目調、職員の執務スペースは明るく優しい色合いの木目調の内装計画としメリハリのある執務空間を演出しました。

女性職員が多いこともあり、荷物用の小型昇降機をフロア間に設けることで、サンプル品等の運搬効率アップを図り、働きやすい計画としました。

搬出入しやすい物流拠点 (出荷センター)

計画敷地は旧本社、加工場に近接し、2つの道路に面した角地のため物流拠点に適した敷地で、建物は、冷凍冷蔵庫やピッキングマシン、移動棚を設置し、自社製品の保管や梱包作業を行う出荷センターとして計画しました。搬出は敷地北側から、搬入は敷地南側からと明確に分けスムーズな搬出入が可能です。

出荷センターの一角には、職員の休憩室や更衣室、WCを整備し、職員の動線やワークフローに合わせた配置計画として新本社事務所同様に働きやすい環境を目指しました。

将来的には太陽光パネルを設置できるように屋根荷重に余力を含んで設計し、屋根形状を片流れとしています。また、屋根形状を活かし、水上側の天井を部分的に掘り上げ、移動ラックを設けることで小屋裏空間を有効活用し、保管量を十分に確保しました。



全景



移動ラック



ピッキングマシン



執務スペース



社長室